

受講のお誘い

「地域を知り、地域で実践するアートマネジメント講座2020」では、連続レクチャーからなる概論編、現場において学習する実践活動編を通じて、地域を見つめる細やかな視点を身につけ、地域資源を生かした文化事業の企画・運営力を伸ばすことを目的とします。リサーチやワークショップ、記録や情報発信など広く芸術分野において有効な技術を学び、アーティストと出会い議論し、音楽・ダンス・美術・演劇・メディアの現場に携わることのできるプログラムです。年齢、経験、学生・社会人問わず受講できます。奮ってご参加ください。

お申し込み・お問い合わせ

受講の方法は「コース受講」と「個別受講」の2種類があります。以下の参加申込フォームにて必要事項を記載の上お申し込みください。受講料はいずれも無料ですが、実践活動編の一部では実費負担が生じる場合があります。詳しくはお問い合わせください。

(1)コース受講

修了要件：
概論編全4回(特別編・交流会除く)と、希望する実践活動のプログラム(1つ以上)を受講していただいた方に、アートマネジメント講座修了証書を交付いたします。
申込締切:2020年7月9日[木]

(2)個別受講

全てのプログラムについて、個別に受講することができます。
申込締切:参加を希望されるプログラムの開催1週間前までに下記まで参加申込フォームにてお申込みください。

参加申込フォーム

<https://forms.gle/bK7uSR1wanAYoEPbA>



WEBサイト

<http://www.rs.tottori-u.ac.jp/artculturecenter/artmanagement2020/>



お問い合わせ先

E-mail / artma-info@ml.rs.tottori-u.ac.jp (蔵多)

TEL / 0857-31-5930 (アートマネジメント講座事務局・蔵多) 0857-31-5073 (鳥取大学地域学部庶務係)

事務局所在地 / 〒680-8551 鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101 鳥取大学地域学部附属芸術文化センターアートマネジメント講座事務局

会場

- ・オンライン
アクセス方法は別途お知らせいたします
- ・鳥取大学
地域学部棟内演習室 / アートプラザ 他
- ・鳥取市内外各所
わらべ館 / 旅風庵 他

プログラムによって会場が異なります。
詳細は各プログラムをご確認ください。

書籍紹介

アートがひらく地域のこれから ークリエイティビティを生かす社会へ

野田邦弘・小泉元宏・竹内潔・家中茂 編著
ミネルヴァ書房 / 2020年3月31日刊
ISBN 9784623088003 / A5判・292頁
3200円+税

「クリエイティビティ」は「芸術家や専門研究者だけのものではなく、日々の暮らしの中で人々によって発揮されている」一本書はそのような確信を書きとどめ、世に問うために編まりました。理論編である第I部「アート・知識生産・文化政策」に続き、第II部・第III部の9章にわたる事例研究と12編のコラムによって、私たちが「重大な見落としの一部」と考える諸活動を取り上げており、本講座の担当教員、関係者も執筆しています。本講座に関心を持っていた方には、ぜひ手に取っていただきたい一冊です。



概論編と6つの実践活動

受講者募集



Arts Management Lectures in Tottori

主催 | 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

担当教員 | 木野彩子・佐々木友輔・鈴木慎一郎・竹内潔・筒井宏樹・西岡千秋

協力 | 公益財団法人とっとり県民活動活性化センター うかぶLLC HOSPITALE 公益財団法人鳥取童謡・おもちゃ館/わらべ館

Photo: Ryoko Tanaka School-in-Progress2019実施風景

地域を知り、地域で実践する アートマネジメント講座2020

地域を知り、地域で実践する アートマネジメント講座2020



Photo:Kazutoshi Fujita



Photo:Ryoko Tanaka



Photo:Shingo Kanagawa



Photo:Shinobu Yamamoto

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、再び芸術と社会・地域との関係が問い直されています。芸術活動は「不要不急」のものなのでしょうか。芸術の本質（のひとつ）である創造性が、この困難な状況を生き抜く術を編み出すという側面があるのではないのでしょうか。

2018年度から実施している本講座では、開講以来一貫して「地域における芸術的営みをいかに価値あるものとしてとらえることができるか」に注目してきました。日々の生活で直面するさまざまな課題にしながら豊かに暮らしを営むためには、ある種の創造性が求められます。これまでの講座を通じ、地域における芸術的営みによって、そのような創造性が育まれるのではないかということが見えてきています。

3年目となる今回の一連の講座でも、そのような観点から創造的な実践を展開している方々を講師に招き、共に考えることを試みます。また、実際の事業の企画運営にも携わることで実践力を身につけるプログラムを目指します。

今年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、現時点でプログラムが確定できないものがあるほか、ここに記載のプログラムも今後変更・中止の可能性があります。最新の情報はWEBサイトで随時公表いたしますので、こちらをご確認ください。
<http://www.rs.tottori-u.ac.jp/artculturecenter/artmanagement2020/>

概論編 会場 | 原則オンライン開催(今後の状況により学内での開催も検討しています)

芸術と社会・地域との関係を考えるにあたり、文化政策・アートマネジメントを取り巻く状況の知識をアップデートするほか、これまで以上に芸術以外の分野との接続・連携・波及を意識し、一般の非営利活動の最新の動向やノウハウを学ぶ講座とします。また、今年度も、受講生それぞれが地域社会や芸術文化活動あるいは身近な環境に対して持つ小さな気づきや違和感を表現し、活動を具体化したり発展させたりできるように、講師との意見交換や受講生同士の交流の時間を設けます。

01 文化政策・アートマネジメントの現状と課題

2020年7月11日[土] 13:30-15:30

講師:大澤寅雄/(株)ニッセイ基礎研究所主任研究員

官公庁・芸術団体・文化施設等の文化政策・アートマネジメントに関する調査研究や事業評価などに数多く携わり、現在も福岡県糸島市でアートの現場に身を置きながら、鋭い視点で文化政策の在り方を発信。3度目の登壇となる今回も、最新のトピックを交えながら芸術と社会・地域のあり方を語っていただきます。

03 地域における芸術・文化事業の企画を考えよう

2020年12月5日[土] 13:00-16:00

講師:有福英幸/(株)フューチャーセッションズ・代表取締役社長

社会問題の解決、市民参加のまちづくり、企業の新規事業の創出など、様々なテーマで、未来思考の対話の場を企画・運営してきたイノベーション・ファシリテーターの有福さんから、今年も共創を生み出すノウハウを学び、自ら実行したい企画を生み出していきます。

02 非営利組織の資金調達の考え方と実情

2020年11月14日[土] 13:30-15:30

講師:徳永洋子/ファンドレイジング・ラボ 代表

視覚障害者向け録音図書のネット配信事業など自ら非営利の活動に携わったのち、NPO等のファンドレイジング力向上事業に従事、日本ファンドレイジング協会の設立にも参画され、現在全国各地でファンドレイジング関連セミナーの講師をされている徳永さんをお招きし、共感の輪をどのように広げたらよいかを考えます。

04 地域における芸術・文化事業を評価しあおう

2021年1月16日[土] 13:00-16:00

講師:有福英幸/(株)フューチャーセッションズ・代表取締役社長

受講者が持ち寄った企画をもとに、それぞれが相互支援しながら、アイデアを精査していきます。実行可能な状態にすべく、地域の多様な関係者を招き入れる方法を学びます。昨年度よりも少し長く時間をとり、充実したワークショップを展開します。

上記4回連続講座の他に、地域課題と芸術の関係をテーマとした特別講座と受講生・教員・コーディネーター間の交流会の開催について検討中です。

実践活動編

A 地域の記憶を記録するためのメディアを探るプロジェクト

2020年5月21日[木] 6月18日[木] 7月16日[木] 8月20日[木]

10～12月も開催予定 いずれも18:30-21:00

講師:蛇谷りえ/うかぶLLC

金川晋吾/写真家 今林由佳/アニメーション作家

「身近な人物へのインタビュー」作業を素材に、今ここで暮らす人々の姿を捉えて記録・編集し、紙媒体や映像メディアなどで発信する方法と思想を実践的に学びます。今年度の定例ゼミ(にんげん研究会)は当面、オンラインでの開催。コロナ禍で「会えなくなったひとやもの」あるいは「出会ったひとやもの」と対話した日の日記を投稿し、三人の講師がそれにコメントするラジオ形式で進行します。

B 鳥取の美術&文化リサーチ講座「現代美術を学び、鳥取美術&文化を調べる」

会場:鳥取大学地域学部棟教室アートスペースⅢ(予定)

2020年10月～2021年1月まで

2週間に1度程度(各回平日19:00～もしくは土・日曜日の2時間)を予定

定員:15名 講師:筒井宏樹/近現代美術研究

現代美術、特に美術批評を中心としたテーマの講義を予定しています。同時に受講生は、鳥取の美術&文化についてのリサーチを行っていきます。リサーチは、文献収集、地図の作成、年表の作成、記録映像の鑑賞、情報交換、関係者への聞き取りなどを想定しています。現代美術に関するゲスト講義のほか、鳥取美術&文化についてもゲストを予定しています。最終的に受講生によるリサーチをまとめた冊子(昨年度『芸術と文化鳥取2020』という冊子を刊行)の発行を目指します。

C School-in-Progress(スクール・イン・プログレス)2020 Living, making for _____ #04

2020年9月以降にオンラインで実施予定(状況により変更する場合があります)

共同ディレクター・講師:mamoru/サウンド・アーティスト

山本高之/ビジュアル・アーティスト

「living/暮らす」と「making/つくる」という人の根源的な営みをキーワードに、既にあるものや普段の生活・日常を見つめ直し、創造性の在処を見つけ、それを 自らの内に育む力を身につけるオルタナティブなアートの学校。コロナウィルスによって流動化した社会におけるアートの実践とは何かについて考えるためのプログラムを実施します。詳細は追ってWEBサイト等でお知らせします。<http://www.school-in-progress.com/>

D おととからだであそぼう～即興音楽とダンスのワークショップ

会場:わらべ館 いべんとほーる、わらべ夢広場
(新型コロナウイルス対策のため、屋外開催可能な時は屋外になります)

2020年6月21日[日] 7月19日[日] 9月6日[日] 10月18日[日] 11月8日[日]

2021年1月31日[日]ごろに集中講座を開講予定

いずれもワークショップは13:30-14:30
(講座として事前打ち合わせ、事後振り返りを行いません。)

音楽とダンスの垣根を越えて踊り奏するワークショップを作ります。今年度は新型コロナウイルス対策のため、接触を控えつつ、外で身体を動かして遊べる遊びを県内講師とともに考案する研究会を立ち上げ、その成果を公開していきます。1月頃状況が良ければ集中講義としてゲストを招き講座を開催し(オンラインによる開講となる可能性もあります)、ワークショップの考え方、場の作り方、配慮すべき点といった実践と様々な現場の実例を多角的に学んでいきます。

E ことばの再発明ー鳥取で「つくる」人のためのセルフマネジメント講座ー

会場:鳥取大学地域学部棟教室アートスペースⅡまたはオンライン開催

オリエンテーション| 2020年7月15日[水] 19:00-20:30

講座| 2020年7月下旬から9月上旬まで4回予定

成果発表会| 2020年9月26日[土]27日[日]を予定

定員:16名 講師:佐々木友輔/映像作家 蔵多優美/デザイナー 他

アーティスト、クリエイター、デザイナー、パフォーマーなど広い意味での表現者＝「つくる」人を対象として、連続講座と講師との対話を通じて、自身の作品や活動を適切に言語化し、他者に伝える技術を学びます。ただ「作品」を作るだけでなく、トークイベントやステイトメント、プレゼンや助成金申請など様々な場面で「言語化」が求められる現在の状況下で、表現と言葉はどのような関係を築くべきでしょうか。領域横断的な講師の助けを借りて、自身を語る「ことば」を再発明しましょう。

F 《貝殻節》再発見

研修| 《貝殻節》の歴史 2020年9月予定(於:旅風庵予定)

各地域《貝殻節》の特徴:浜村温泉、賀露、青谷、泊の比較検証 2020年10月予定(於:鳥取大学アートプラザ)

公演| 《貝殻節》の未来:新しいスタイルでの表現 2021年1月予定(於:鳥取大学アートプラザ)

鳥取県の代表的な民謡の《貝殻節》の特徴を学び、口頭伝承による民謡の多様性への理解を深めながら、地域資源を理解し普及させていくためのアートマネジメントについて実践的に学んでいきます。また、これからの《貝殻節》の在り方について、受講生とともに検討し、新しいスタイルの《貝殻節》を構想する機会を設けます。